

異文化と 心通わせ

59

村田 佳子



いつも読んでいたり、ついでに読んでいました。本当にありました。それがじつじつあります。庄内日報を夕飯の支度前にテーブルでめくつて、おしゃべりが済んでから、また開いて評報欄からまた目を通す方、皆さんはどんな風に新聞をご覧になつておられるのでしょうか。これまで、「毎週読んでいます」と手紙をくださった皆さま、本当にありがとうございます」というお声がけくださいました。

たの方、「(小学生の)うつお話を」したが、その後続いて独立行政法人・国際協力機構2006年度のメディア部門に入賞するという経験もさせていただきました。そして、このたび、田川地区高等学校PTA連合会での講演のお話をいたしました。だましまして、11月17日(土)に鶴岡南高等学校講堂で15時50分から17時20分までです。演題はこの「一文化」と同じく「異文化と心通わせ」です。

当団は、これまでの連載で書かせていただいた開発途上国の方々との出会い、また紙面に書ききらだした。仕事で訪れた大学時代の同期の友人か



その方々に教えていただきて、パニアニア・ギニアにいた「あたりまえの中に移る現在2人のお子さんある幸せ」に触れ、異文化と共に暮らしていくのについて一緒に少し考えられればと思います。11月観されていた私の記事を

読んでいてくれたことが、ただくに当たり、何か温かい気持ちになるような時間ができました。「もしかしたら人違いかもしれません。」ギニアのオフィスで回ります。

田川地区高等学校の保護者の皆さまのほか、一般の皆さまの参加も心からお待ちしております。を聞き、本当にありがとうございました。

多くの方々の仕事にてみよう」と送信するのには勇氣のいることだったと思います。その知らせをうながすと、本当に嬉しいです。

今回で5回目を迎えるコーナーですが、7月の終わりどんづら、この連載のちょうど4回目の原稿を書くためにパソコンに向かっていたときのことです。一通のメールが届きました。「もしかして水泳部の村田さんですか?」だと実感します。十

数年の歳月もとして海も越えてまた近況を伝え合

うことができたわけです。から新聞のチカラ、言葉のチカラをあらためて

ユーニティからでした。だから、新聞のチカラ、言葉のチカラをあらためて

異文化と心通わせ

歳月も海も越えて

とじなされました。会場は鶴岡南高等学校講堂で15時50分から17時20分までです。演題はこの「一文化」と同じく「異文化と心通わせ」です。

当団は、これまでの連載で書かせていただいた開発途上国の方々との出会い、また紙面に書ききらだした。仕事で訪れた大学時代の同期の友人か

サモアで現地の女性と結婚し、フィジーへ、そしてムス